
世界を救うのはなんでも屋！？

チョボロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界を救うのはなんでも屋!?

【Nコード】

N4993BA

【作者名】

チヨボロン

【あらすじ】

俺は良! なんでも屋をやっている最強の高校三年生だ、修学旅行で載っていたバスが事故にあい俺は死んだと思っていたが、俺は森に倒れていた! これから彼の人生はどうなるのか!

(前書き)

この小説は受験生であるにもかかわらず暇な中学生が書いたものですが言葉がなっていないかもしれません
見てくれたら幸いです

そして、前書いたやつのリベンジです

ではどうぞ世界を救うのはなんでも屋！？

？「ダウト!!」

親友が出した7の次のカードで俺は叫んだ！

俺は赤城良あかぎりよう

高校3年生なのに18歳と年齢をだまして高校生をやっている21歳だ

出身地は京都、なんでも屋をやっている男だ！

なんでも屋って何ってか？

ひとつは銀○に憧れたからだ

仕事は簡単、銀○と一緒にだw

これは秘密で独自でやっている、学校にバレないように・・・
最近の大きな仕事は最近勢力を伸ばしているヤクザの組織を潰した
ことかな

1万人位軽いって(笑)
なぜって？

簡単だよ俺の一家が我流の剣術(二刀流赤木流)をやっている
それで小学生からありえないくらい修行をしたからだ
どんな修行って？

想像にお任せします☆

今日は修学旅行で、東京に行く
と言っても東京にいて、バスにいる
いいだろ？(「」)ニヤリ

俺は高校生ライフを楽しんでいる

今俺はバスのなかで親友2人とダウトをやっている

これは盛り上がる

親友B「残念、この30枚全部お前のな」

そういつて俺にみせたカードを見せた

8だった・・・

こいつ（親友B）は俺の親友、あいざわなおひと相澤直人

直人は俺と一緒になんでも屋をやっていて俺のサポートをしてくれる
歳は俺と一緒にだ

例にヤクザの制圧で人数、地図、脱出経路などと役に立っている
こいつと話すようになった理由は何でも屋の依頼で助けたら入って
くれた

良「30枚だと・・・嘘だろ？」

30枚って結構な量だぞ

トランプ半数越してるし・・・

直人「ほんとだよ（「」）ニヤリ」

良「クソが！！！！」

親友A「お前っていつも数が溜まったあと外すよな」

こいつ（親友A）は俺の親友、おおはらまさゆき大原雅之

なんでも屋と一緒にしている

雅之は昔、海外で親と戦争的なサバイバルな生活をしていたため
自衛隊の心得をもっていて、銃や爆弾使っている

例に、俺が前線で戦っているとき、援護射撃をしてくれたり（もち
ろん死んでいません）

ヤクザの組織の建物を破壊してくれたりする

こいつも直人と一緒になんでも屋で助けたら仲間になってくれた

雅之「まあ・・・どんまい、直人ナイス（ヒソヒソ（´∀｀）b
グッ！」

良「なに直人に」（´∀｀）bグッ！」ってしてんだよ！てめは
鬼か！」

雅之「鬼ですがなにか？」

良「くそおおお！」

くそ！30枚はきつい俺あと5枚くらいだったのに35枚にちゃっ
たテヘペロ☆

直人・雅之「キモイよ」

良「俺なんか言った！」

直人「あれ？違うかった？」

雅之「まじで、俺は違うくはないんだと思ったんだけど・・・」

良「言ってるねーよ！」

直人・雅之「「違う違うあっちに逝ったんだよ」」

良「感じ違う！てか、あっちなんだよあっちって」

そうとうと二人は右手の甲を左のほっぺに持って行って乙女のポーズをとった

良「逝かね〜よ!!」

直人・雅之「「なんだ・・・残念・・・」」

良「あんたらは、グルなんか? てかグルだよな?」

直人・雅之「「違います!」」

良「おんなじこと言っておんなじタイミングで言われても説得力ねーわ」

はああ・・・

何回ツツコミいれたかわからねえや・・・

良「直ラッシュ、雅ラッシュ、僕もう疲れたよ・・・」

直人・雅之「さようなら☆（＊　ハ　ー　）ノバイバイ」

良「感動の場面だろ! 何勝手にさようならとかいってんの!」

直人「だってパ○ラッ○ユニ匹もないし」

良「まあそうだけど・・・」

雅之「だいたい、疲れたなら寝てろって」

良「そういう意味で言ったのかよ・・・」

ピンポン パーんポーン

アナウンス「もうそろそろで付きますので荷物を運べるように準備してくださいね」

あ、終わったもうちょっと聞きたかったな

女の人の声好きなんだ・・・
てか声フェチなんだ（笑）

直人・雅之「っと思っている良がいた・・・」

良「心を読むな！」

雅之「いや声にでたたし」

マジで？

直人・雅之「うんマジマジ」

良「今絶対言っていないだろ！なんで分かんだよ！」

直人・雅之「わかりやすいからに決まってんだろ！！舐めとんのか！」

良「逆ギレかよ！」

そういうなんの意味もない会話が続いたが、

ドガチャン！・・・バツシャン！

と音を鳴らした

そう、トラックが俺たちが乗っているバスに右から突っ込んできた
しかも運が悪く俺たちは橋の十字路（左に行く道がない）に居た
ぶつかったあと橋から落ちて海に放り出されたのだ・・・

そして俺は死んだのか・・・

(後書き)

読んでもらってありがとうございます

いきなりですがアンケートをとります (笑)

アンケートの内容はなんでも屋をやるかどうかということです

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でリリなのに乱入

2、なんでも屋をやって、自由に3人で暮らす話にしてリリなのはあまりかわらない

3、なんでも屋をやらなくて、ゆりかごが出た時危ないと思って乱入

4、なんでも屋をやらなくて、ヴィヴィオを見つけて乱入

5、なんでも屋をやらなくて、次元漂流者で保護されて乱入

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4993ba/>

世界を救うのはなんでも屋！？

2012年1月13日21時47分発行